

学校法人 柏 専 学 院

平成 30 年 度 事 業 報 告

目 次

第 1 部 学校法人柏専学院の概要	P 1
1. 設置する学校、学部、学科等	
2. 学生数の状況	
3. 役員、教職員の概要	
4. 理事会開催状況	
第 2 部 事業の概要	P 4
I 新潟産業大学	
1 大学全体	
1. 1 管理・運営	P 4
1. 2 附属図書館	P 7
1. 3 FD (ファカルティ・ディベロップメント) 及び SD (スタッフ・ディベロップメント)	P 9
1. 4 施設設備	P 10
2 経済学部	
2. 1 教育	P 11
2. 2 研究	P 13
2. 3 学生への支援	P 15
2. 4 留学生支援	P 18
2. 5 学生募集及び入学試験	P 20
2. 6 地域貢献・生涯学習	P 23
2. 7 国際交流	P 29
3 大学院経済学研究科	P 31
3. 1 教育及び研究指導の改善	
3. 2 学習・研究の支援	
3. 3 教育の成果	
3. 4 国際交流	
II 新潟産業大学附属高等学校	P32
1. 概況	P32
2. 部活動実績及び進学実績	P32
3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ	P36
4. 生徒募集	P40
5. 新規取組事項	P42
第 3 部 財務の概要	P43

第 1 部 学校法人柏専学院の概要

1. 設置する学校、学部、学科等

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 8 0 収容定員 3 2 0
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 6 0 収容定員 2 4 0
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 1 0 収容定員 2 0 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 1 6 0 収容定員 4 8 0

2. 学生数の状況

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	7 7	3 0 0
			2 年	7 4	
			3 年	6 9	
			4 年	8 0	
		文化経済学科	1 年	5 3	1 6 8
			2 年	3 8	
			3 年	3 1	
			4 年	4 6	
	合計(大学)			4 6 8	
	大学院	経済学研究科	1 年	3	7
2 年			4		
合計(大学院)			7		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		1 年	1 6 2	4 1 8
			2 年	1 2 7	
			3 年	1 2 9	
	合計(高校)			4 1 8	
総 計			8 9 3		

3. 役員、教職員の概要

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

		現 員						
役員等	理事	監事		役員合計		評議員		
	9	2		11		21		
教員・教諭	大学					高校		
	専任			非常勤		専任	非常勤	
	大学院	経済学部	合計					
	9 (併任)	27	27		25	29	12	
職員	大学					高校		
	専任	嘱託	臨時	合計		専任	嘱託	臨時
	18	7	4	29		4	—	—

4. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8~11 人 (現員 9~10 人) 監事定数 2 人 (現員 2 人)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H30.5.30	9 人	1 人	議題 1.平成 29 年度事業報告 2.平成 29 年度決算 3.平成 30 年度当初予算の一部変更 他
第 2 回	H30.5.30	9 人	1 人	議題 1.平成 30 年度当初予算の一部変更 2.副理事長 の選任 3.理事分掌 4.参与の選任 5.規程改正 6.「新潟産業大学改革プラン」進捗管理 他
第 3 回	H30.6.29	9 人	1 人	議題 1.規程改正 2.新潟産業大学名誉学長称号の授与 他
第 4 回	H30.7.28	9 人	2 人	議題 1.私学事業団経常費補助金について 2.大学人事 他
第 5 回	H30.8.29	9 人	1 人	議題 1.寄附行為の変更 2.理事、評議員の選任 他
第 6 回	H30.8.29	9 人	1 人	議題 1.寄附行為の変更
第 7 回	H30.11.26	10 人	1 人	議題 1.理事の選任 2.理事長の選任

回数	開催日	理事定数 8~11 人 (現員 9~10 人) 監事定数 2 人 (現員 2 人)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 8 回	H30.11.26	10 人	1 人	議題 1.人事について 他
第 9 回	H31.3.29	10 人	1 人	議題 1.平成 31 年度事業計画 2.平成 30 年度第 1 回補正予算 3.平成 31 年度当初予算 4.人事(大学、高校) 5.理事、評議員の選任 7.諸規程改廃 他
第 10 回	H31.3.29	10 人	1 人	議題 1.平成 31 年度事業計画 2.平成 30 年度第 1 回補正予算 3.平成 31 年度当初予算 他

第2部 事業の概要

I 新潟産業大学

1 大学全体

1. 1 管理・運営

実施項目	平成30年度実施内容
(1)大学の管理・運営	<p>①株式会社ウィザスとの業務提携 学校法人柏専学院と株式会社ウィザス第一学院高等学校、第一ゼミナール等を運営展開するジャスダック上場企業)との業務提携締結にもとづき、学生募集及び通信教育課程設置申請に向けた協業体制を組織した。</p> <p>②大学と附属高校との「高大連携協議会」の設置 理事長及び大学側として学長、担当学長補佐、入試委員長、入試・広報課長、附属高校側として校長、教頭、高校事務長、高校教務部長、高校学年主任により構成する「高大連携協議会」を設置した。高大連携「ブリッジプログラム」や相互交流活動の検討・実施により、連携協働態勢の強化を図った。</p> <p>③「企画調査室」を「IR (Institutional Reserch) 室」に転換 内部質保証に関連して、収集、分析すべき教学情報を明確化し、「企画調査室」の所管事項及び室の名称を検討し、「新潟産業大学企画調査室規程」を「新潟産業大学IR室規程」に改正するとともに、室の名称を変更した。この改正に伴い、「IR室」の所管事項とした「教育研究に関する情報」「学生の学修に関する情報」「外部評価に関する情報」等の収集を開始した。</p> <p>④「新潟産業大学学科会議規程」等の制定 会議体として実態、実施がありながら、規程化が遅れていた学科会議の所管事項と運営等に関して規程を制定した。</p> <p>⑤大学評価（認証評価）令和2年度再評価に向けて 令和元年度における、全学自己点検・評価を実施する上で、平成29年度大学評価結果における提言事項をまとめたチェックシートを作成するとともに、「新潟産業大学自己点検・評価に関する規程」の見直しを行った。</p> <p>⑥教職員の意識改革の推進 3回の全教職員集会を開催し、教職員の意識改革に資する大学の現状共有を行った。</p>

	<p>⑦その他 内部監査規程により、内部監査を行った。</p>
<p>(2)財務の改善</p>	<p>1) 学生確保による収入増</p> <p>① 平成 31 年度春学期入試及び平成 30 年度秋学期入試の結果は以下のとおりである。「2. 5 学生募集及び入学試験」を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 31 年度春学期 1 年次入学生は 149 人で、対前年同期比 35 人（30%増）増加となった。 ・ 平成 30 年度秋学期 1 年次入学生は 13 人で、対前年同期比 1 人の減となった。 <p>② モンゴル国並びに中国内モンゴル自治区において海外秋学期入試を実施し、留学生を受入れた。詳細は、「2. 5 学生募集及び入学試験」を参照。</p> <p>2) 外部資金の獲得</p> <p>① 私学事業団経常費補助金の獲得 収容定員充足率の着実な改善により、全体の交付額は前年度比 5,908 千円減（▲4.5%）に留まり、124,227 千円となった。</p> <p>② 科学研究費補助金（科研費）採択の取組み強化 詳細は「2.2 研究（2）」を参照</p> <p>③ 柏崎市「私立大学学生募集支援事業補助金」 事業費 7,989 千円に対し 2,500 千円の補助金交付を受けた。</p> <p>④ 柏崎市「大学生就職促進事業補助金」 事業費 2,264 千円に対し 1,509 千円の補助金交付を受けた。</p> <p>3) その他の収入増</p> <p>① 寄付金収入の増 寄付金（「新潟産業大学基金」）は、52 件 2,381 千円の受入れとなり、1,169 千円の増となった。</p> <p>② その他</p> <p>4) 経費の節減</p>

(3)広報体制の強化	<p>①大学の教育情報の公表及び大学運営に関する情報発信は、学長・副学長等会議の責任において行うこととした。</p> <p>②大学事務局の「入試課」を「入試・広報課」に改め、学生募集広報以外の「学報」の発行等も担うこととした。</p> <p>③卒業生でシンガーソングライターの松井正道氏に「産大カレッジソング」と大学PR動画の制作を依頼し、ホームページや学園祭等において、本学の魅力発信を行った。</p>
------------	--

用語：「IR (Institutional Reserch) インスティテューショナル・リサーチ」

教学IR。高等教育機関における計画立案や意思決定に有効な諸情報の集約、分析及び報告を行う組織的機能。主要な機能として、外部評価への対応、機関における研究立案や意思決定に有効な諸情報の集約、分析及び報告が挙げられるとともに、学生の学習成果の評価に基づく学生の分析と、その結果の執行部や関連部門への提供が挙げられる。

1. 2 附属図書館

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)利用者への支援	<p>① 情報コンテンツを高めるデータベースの充実 予算配分の見直しを行った結果、本年度は電子ジャーナルの購読を見送った。</p> <p>② 一般市民や中高生への図書館開放 例年どおり中高生への夏休み図書館開放を行うとともに、通年で学外者への図書館開放を行った。中高生の利用はなかったが、一般市民の利用は、リピーターが定着し、新規利用者も増加した。</p> <p>③ 利用者数及び貸出冊数の増 延べ来館者は減少したが、貸出冊数・貸出人数は増加した。特集コーナーの展示、SNS を利用した情報発信、利用者からの声、教員へのヒアリングを通じ、カリキュラムに必要なテキスト以外の資料収集に努めた。全体的に、学生、学外者、教職員とも、貸出利用は増に転じた。</p> <p>④ レファレンスの活用についての周知 SNS を通じてレファレンスサービスの周知を図った。また、資料を探している利用者に積極的な声掛けを行った。このことをきっかけに利用者の希望があれば、レファレンスや提案を行った。</p> <p>⑤ 他館との連携協力 引きつづき刈羽村立図書館から定期的に団体貸出を受けた。学生からのリクエストを受けることもあり、自館が所蔵しないジャンルの補完機能を担った。</p>
(2)資料の整理・整備	<p>① 開架図書の整理 配架図書の新陳代謝を図る観点から、内容が陳腐化した資料を中心に除籍作業を行い、図書の整理、書棚のスペース確保・狭隘緩和を進めた。また、閉架書庫に関しては、データベース化が進んでいる等の理由で、他大学紀要の整理・処分を進め、書架スペースの確保に努めた。</p> <p>② 新刊本の選書と配架促進 相対的に 1980～90 年代の図書冊数が多いため、図書の陳腐化が進行している印象が否めない。蔵書の新陳代謝を図るため、本学の授業内容にふさわしい図書等を中心に選書し、最新の資料充実に努めた。</p>
(3)資料の管理・保存	<p>① 所在不明図書等の削減 返却遅延者の管理徹底と蔵書点検の実施で、所蔵の確認と不明本の抽出を行った。数年にわたり不明本のままで、発見できない図書については除却を行った。平成 30 年度末の不明本冊数は 10 冊であった。</p> <p>② 定期的な書架整理作業の実施 学生アルバイトが週 2 回、分類順の配架に気を配りながら整理にあたった。シリーズのばらつきやラベルの剥がれ等の確認も行った。</p>

(4)開館サービス状況	<p>① 開館時間：月～金 9:00～18:00 (長期休業期間中 9:00～17:00) H30.4月から、月～金すべての曜日で18:00閉館とした</p> <p>② 入館者延べ人数：21,261人（前年度から2,862人減） 長時間滞在する学生による入退館の延べ人数の減少、DVD等視聴利用の減少によるものと推測される。</p> <p>③ 資料提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貸出数： 2,588冊（前年度から50冊増） ・ 貸出延べ人数： 1,134人（うち、学生680人） ・ 他大学図書館等との相互協力による資料依頼・資料提供件数 <table border="1" data-bbox="587 685 1137 801"> <tr> <td></td> <td>文献複写</td> <td>相互貸借</td> </tr> <tr> <td>依頼</td> <td>25</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>25</td> <td>26</td> </tr> </table> <p>※他大学以外の図書館…相互貸借依頼 1件</p>		文献複写	相互貸借	依頼	25	2	受付	25	26
	文献複写	相互貸借								
依頼	25	2								
受付	25	26								
(5)図書受入・処分	<p>① 古本募金の導入</p> <p>平成30年11月より、古本募金を運営する業者と業務提携（共同パートナー契約）を行った。これにより、これまで受入を停止していた一般の方からの図書寄贈を有益な方法で再開することが可能になった。また、本学で発生した除却図書も殆ど廃棄することなく、有効に活用することが可能となった。</p> <p>古本募金によって集められた図書は業者が査定し、その換金額が本学に寄付される仕組みであり、本は状態に応じて再利用される。平成30年度は278冊が買い取られ、20,352円の寄付があった。</p>									

1. 3 FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の推進	<p>① 「学生による授業評価」の実施 学生に対し実施している「授業アンケート」の名称を、平成 30 年度から「学生による授業評価」に変更し、その一環として、春学期（平成 30 年 6 月 18 日～6 月 22 日）と秋学期（平成 30 年 11 月 12 日～11 月 16 日）の 2 回、授業アンケートを実施した。 アンケート結果については、「科目別各回答率分布表」「全体結果グラフ（一般講義、外国語、ゼミ演習等、区分毎に集計）」「クロス集計結果」を本学ホームページに公開し、「アンケート結果に対する教員から学生へのコメント」については学生及び教職員が見ることができる学内ホームページに公開した。また、「自由記述欄」への回答については、例年各々担当教員に伝えるのみであったが、平成 30 年度は、これも学内ホームページに公開した。 また、アンケートの結果、高評価であった 8 科目に対し「受講生が選ぶベスト授業賞」が学長から授与された。一方、評価の低い授業に対しては「授業改善計画書」の作成を義務付け、これを学内掲示した。 以上、授業アンケート結果を踏まえ、各々授業改善へ取り組むよう学長から指示がなされた。</p> <p>② 「教員による授業評価」の実施 「教員による相互授業見学」の名称を、平成 30 年度から「教員による授業評価」に変更し、この評価活動の一環として授業見学を実施した。 授業見学は、平成 30 年 10 月 22 日（月）から 11 月 2 日（金）の期間に実施した。FD 委員会が見学授業を指定し、全教員に見学を義務付けた。また、本年度は事務職員管理職にも見学を義務付け、事務職員目線の意見も取り入れることとした。見学後、見学者全員に「見学レポート」を提出させた。 提出された「見学レポート」は、個々の授業改善に繋げることを目的として、一部内容を除き全見学者（教員及び事務職員管理職）に公開した。</p> <p>③ FD 講演会の開催 以下のとおり、FD 研修として講演会を開催した。 テーマ：「2017 年度第 23 回FDフォーラム『FDのこれまでと、これから～多様な角度からFDについて考える～』研修」 参加報告 日 時：平成 30 年 5 月 23 日(水) 場 所：第 1 会議室 講 師：宇都宮仁専任講師</p>

<p>(2)SD (スタッフ・ディベロップメント) 研修の推進</p>	<p>① 各種レベルアップ研修への職員派遣 「障害学生支援理解・啓発セミナー」 障害者差別解消法（平成 28 年 4 月施行）を受け、大学における障害学生支援の体制整備と合理的配慮に関する事例研究、意見交換を行った。 ■開催日：平成 30 年 9 月 20 日 参加数：1 人（医務室担当者）</p> <p>② 「高等教育コンソーシアムにいがた」大学連携部会 SD 研修会 本学と長岡造形大学が部会の幹事校として、県内高等教育機関の教職員を対象に SD 研修会を企画、実施した。 ■開催日：平成 30 年 11 月 16 日 テーマ：「大学（学生、教職員）における SNS の現状、留意点と注意点」 参加数：39 人(全参加者) うち、本学から 4 人が参加</p>
-------------------------------------	---

1. 4 施設設備

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)キャンパス・アメニティーの改善	<p>受動喫煙防止のため、平成 29 年 4 月から校舎内禁煙（屋外一カ所に喫煙スペースを設置）としてきたが、学校を含む第一種施設における敷地内禁煙等を定めた「健康増進法の一部を改正する法律」の施行期日が令和元（平成 31）年 7 年 1 日であることから、対応を前倒して平成 30 年 4 月に屋外喫煙スペースを廃止するとともに、校地内の全面禁煙に踏み切った。</p>
(2)地域への施設開放	<p>地域に根ざす開かれた大学として、本学施設の利用を広く地域に呼びかけている。平成 30 年度は、1,409 人の学外者が本学の施設を利用した。以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p>【開放施設】</p> <p>① 体育館 利用日数：延べ 90 日 ② テニスコート 利用日数：延べ 124 日 ③ 講堂 5 日 ④ 教室他 9 日 ⑤ 駐車場 2 日</p>

2 経済学部

2. 1 教 育

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1) 教育内容・方法の改善	<p>① 地域課題に取り組む教育（課題解決型学習とアクティブラーニング等）の実施</p> <p>「専門ゼミナール」や「まちづくり基礎」等の授業科目において地域課題への取り組みをテーマとした授業を行った。また、「専門ゼミナール」を中心に、延べ 56 の授業（延べ約 850 人）において、実際に現地に赴き学習するフィールドワーク形式を取り入れた。</p> <p>※参考（過年度の実践状況）</p> <p>平成 29 年度は延べ 54 の授業（延べ約 640 人） 平成 28 年度は延べ 49 の授業（延べ約 500 人） 平成 27 年度は延べ 21 の授業（延べ約 210 人） 平成 26 年度は延べ 26 の授業（延べ約 150 人）</p> <p>その他、地域活性化に資する専門科目の充実に向け、1 年次からの専門ゼミナールとして「地域理解ゼミナール」（1、2 年次専門科目）の新設を決め、これを学則に定めた。3、4 年次の「ゼミナール」（「地域活性化ゼミナール」への改称も検討した。）に繋げ、地域をおこす人材育成の教育効果を高めようとするものであり、平成 31 年度入学生から適用する。</p> <p>② 修学指導の強化</p> <p>標準修得単位数を設定しこれに満たない学生や、GPA 下位者、出席率の悪い学生に対し、担当教員の面接を義務付け、修学指導を行うこととした。については、「修学指導に関する事項」について、その規定案を固めた。</p> <p>一方、成績優秀者への表彰について、本年度より、GPA 値最上位者を卒業時の学長賞決定基準にすることを決めた。また、卒業時の表彰だけでなく、在学生の GPA 優秀者への表彰制度も、次年度以降検討する。</p> <p>③ 教育課程の体系を実現する授業の促進</p> <p>教育課程の科目体系については、「履修モデル」、「科目ナンバリング」及び「カリキュラム・ツリー」で明示しており、履修ガイダンス等において学生への説明周知を行っている。</p> <p>これについては、担当する科目がカリキュラム体系の中で、どのような位置付けにあるのかを教員自身が認識・検証した上で授業を行うことが重要であり、加えて隣接する授業科目間においては担当教員間でカリキュラム体系のイメージを共有する必要があるが、次年度の検討事項とする。</p> <p>④ 単位制度実質化の促進</p> <p>講義においては自学自習を行うことが単位修得要件の一つであることを踏まえ、単位の実質化について学生の意識を高めるよう取り組んだ結果、下表のとおりとなった。</p> <p>平成 29 年度に比して自学自習に取り組む学生が増え、3 年連続で増加している良い傾向が見られた。</p>

	<p>次年度は、学生の自学自習時間に関連し、CAP制の見直しを検討する。</p> <p>■1年～4年全学生に対する自学自習実施状況アンケート 質問「あなたは予習・復習などをしてこの授業に積極的に取り組んでいますか。」に対する回答集計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>学期</th> <th>平成30年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「大いにそうである」及び「そうである」</td> <td>春学期</td> <td>56%</td> <td>49%</td> <td>46%</td> </tr> <tr> <td>秋学期</td> <td>61%</td> <td>56%</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「どちらともいえない」</td> <td>春学期</td> <td>29%</td> <td>34%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>秋学期</td> <td>28%</td> <td>30%</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「そうではない」及び「全くそうではない」</td> <td>春学期</td> <td>15%</td> <td>17%</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>秋学期</td> <td>11%</td> <td>14%</td> <td>13%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	学期	平成30年度	平成29年度	平成28年度	「大いにそうである」及び「そうである」	春学期	56%	49%	46%	秋学期	61%	56%	56%	「どちらともいえない」	春学期	29%	34%	35%	秋学期	28%	30%	31%	「そうではない」及び「全くそうではない」	春学期	15%	17%	19%	秋学期	11%	14%	13%
回答	学期	平成30年度	平成29年度	平成28年度																													
「大いにそうである」及び「そうである」	春学期	56%	49%	46%																													
	秋学期	61%	56%	56%																													
「どちらともいえない」	春学期	29%	34%	35%																													
	秋学期	28%	30%	31%																													
「そうではない」及び「全くそうではない」	春学期	15%	17%	19%																													
	秋学期	11%	14%	13%																													
(2) リメディアル教育の改善	<p>① 入学前教育の実施および1・2年次における基礎学力の強化 新入生が大学での学修に円滑に移行できるよう、日本人入学予定者(入試合格者)に対する入学前教育(外部専門業者への委託契約による。)を実施した。 また、専門教育を学ぶ上で必要とされる基礎知識やプレゼンテーションスキル習得のため、1年次の基礎科目である「基礎ゼミナール」や「生活数学」等でこれを行った。</p>																																
(3) 成績不振者及び授業連続欠席者への修学指導	<p>① 授業連続欠席者の把握及び指導 中途退学を予防するため、経済学部教授会で決定した「学内授業出欠管理システム」に基づき、連続欠席学生を早期発見・把握し、担任教員またはCLA(キャンパスライフ・アドバイザー)が、欠席理由を確認して必要な指導を行った。 また、全保護者への成績表や時間表の送付や、「個別面談会」等においても授業出欠情報を提供するなど、保護者と協働し欠席の多い学生のケアに取り組んだ。</p>																																

用語：「カリキュラム・ツリー」

入学から卒業までの各年次における学びの流れをツリー型のマップでわかりやすく図示したもので、本学での学びを俯瞰できる。「履修の手引き」にこれを掲載している。

用語：「GPA」(文部科学省ホームページより)

アメリカで行われている学生の成績評価方法の一種。その一般的な取扱いの例とされているものは、以下のとおり。

1. 学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を5段階(本学はS、A、B、C、D)で評価し、それぞれに対して4、3、2、1、0のグレードポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA、グレード・ポイント・アベレージ)を出す。
2. 単位修得はCでも可能であるが、卒業のためには通算のGPAが2.0以上であることが必要とされる。
3. 3セメスター(1年半)連続してGPAが2.0未満の学生に対しては退学勧告がなされる。ただし、突然勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。

なお、このような取扱いは、1セメスターに最低12単位、最高18単位の標準的な履修を課した上で成績評価して行われるのが一般的である。

2. 2 研 究

事業項目	平成 30 年度実施内容																
(1)地域に根ざした研究の促進	<p>柏崎研究所が、平成 30 年 10 月 7 日、柏崎エネルギーホールにおいて、第 2 回柏崎学シンポジウム「霊峰 米山を知る－地質・植物・民俗－」を開催した。参加者は 100 人。参加者アンケート結果では、「米山」という身近なテーマが好評だったので、次回開催の参考としたい。</p>																
(2)紀要の発行	<p>① 経済学部紀要第 51 号を平成 30 年 7 月に発行した。 研究テーマ 2、執筆者 2 人</p> <table border="1" data-bbox="571 591 1425 851"> <thead> <tr> <th data-bbox="571 591 783 629">執筆者</th> <th data-bbox="783 591 1425 629">題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="571 629 783 775">権田恭子</td> <td data-bbox="783 629 1425 775">大学におけるアクティブラーニング推進のための学内連携体制の構築－『『大学は美味しい!!』フェア』参加に向けた商品開発、販売実習の実践を手掛かりに－</td> </tr> <tr> <td data-bbox="571 775 783 851">小林健彦</td> <td data-bbox="783 775 1425 851">韓半島に於ける災害情報の言語文化－百済本紀を事例とした倭国との対比</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 経済学部紀要第 52 号を平成 31 年 1 月に発行した。 研究テーマ 4、執筆者 6 人</p> <table border="1" data-bbox="571 954 1425 1290"> <thead> <tr> <th data-bbox="571 954 783 992">執筆者</th> <th data-bbox="783 954 1425 992">題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="571 992 783 1104">阿部雅明 宇都宮仁 平野実良</td> <td data-bbox="783 992 1425 1104">経済効果の検証を目的とする地域通貨ゲームの設計－地域通貨ゲーム「ネット販売.com」－</td> </tr> <tr> <td data-bbox="571 1104 783 1142">星野三喜夫</td> <td data-bbox="783 1104 1425 1142">トランプ大統領の英語を添削する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="571 1142 783 1218">小林健彦</td> <td data-bbox="783 1142 1425 1218">高句麗本紀に見る災害対処の言語文化～太祖大王期以降を中心として～</td> </tr> <tr> <td data-bbox="571 1218 783 1290">アブドゲニイ アブドレヒミ</td> <td data-bbox="783 1218 1425 1290">中国における大気汚染物質 PM2.5 の現状と動向</td> </tr> </tbody> </table>	執筆者	題目	権田恭子	大学におけるアクティブラーニング推進のための学内連携体制の構築－『『大学は美味しい!!』フェア』参加に向けた商品開発、販売実習の実践を手掛かりに－	小林健彦	韓半島に於ける災害情報の言語文化－百済本紀を事例とした倭国との対比	執筆者	題目	阿部雅明 宇都宮仁 平野実良	経済効果の検証を目的とする地域通貨ゲームの設計－地域通貨ゲーム「ネット販売.com」－	星野三喜夫	トランプ大統領の英語を添削する	小林健彦	高句麗本紀に見る災害対処の言語文化～太祖大王期以降を中心として～	アブドゲニイ アブドレヒミ	中国における大気汚染物質 PM2.5 の現状と動向
執筆者	題目																
権田恭子	大学におけるアクティブラーニング推進のための学内連携体制の構築－『『大学は美味しい!!』フェア』参加に向けた商品開発、販売実習の実践を手掛かりに－																
小林健彦	韓半島に於ける災害情報の言語文化－百済本紀を事例とした倭国との対比																
執筆者	題目																
阿部雅明 宇都宮仁 平野実良	経済効果の検証を目的とする地域通貨ゲームの設計－地域通貨ゲーム「ネット販売.com」－																
星野三喜夫	トランプ大統領の英語を添削する																
小林健彦	高句麗本紀に見る災害対処の言語文化～太祖大王期以降を中心として～																
アブドゲニイ アブドレヒミ	中国における大気汚染物質 PM2.5 の現状と動向																
(3)研究業績等の公開	<p>平成 28 年度自己点検・評価において、平成 18 年以降の研究業績をまとめ、ホームページ上に公開した。</p>																
(4)公的研究費の獲得	<p>① 科学研究費への申請・採択支援</p> <p>ア. H30 年度科学研究費申請者数…5 人</p> <p>イ. H30 年度添削受講者数…4 人 (受講希望者は 5 人…1 人未実施) 科研費申請用研究計画書の添削・アドバイス指導 (8 月～10 月) を外部業者へ委託した。</p> <p>ウ. H30 年度継続課題 4 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表：阿部雅明 基盤研究 C 研究分担者：宇都宮仁 平野実良 ・ 研究代表：岡田華奈 研究活動スタート支援 ・ 研究代表：郷香野子 研究活動スタート支援 ・ 研究分担者：高橋真一 (神戸大学 基盤研究 B) 																

	<p>※研究代表の諸事情により、H30年度の事業は行われなかったため、配分はなし。</p> <p>エ. 平成 30 年度申請分の採択結果 (H31 年度事業課題)</p> <p>a. 本学採択 2 件 (採択者の 1 人は添削受講者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表：岡田華奈 若手研究 (研究期間：2019～2021 年度 3 年間) ・ 研究代表：郷香野子 若手研究 (研究期間：2019～2020 年度 2 年間) <p>b. 他大学採択 なし</p> <p>② 外部講師による説明会の実施 平成 30 年度は講師派遣による説明の実施は行わなかった。平成 31 年度に別の形で、教員への科研費制度の理解を図り、申請・採択に繋げる。</p>
<p>(5)その他研究助成金の獲得</p>	<p>① 内田エネルギー科学振興財団助成金</p> <p>ア. アブドゲニイゼミ (代表：アブドゲニイ アブドレヒミ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「エネルギーと環境問題」のタイトルに関連した科学技術知識普及に関する講演 and/or 燃料電池実演 ・ 「分光シートや偏光シートを用いた光万華鏡作成」等の子ども理科工作・実演 <p>イ. アブドゲニイ アブドレヒミ 「サイエンス教室 in コミセン 2018」 (1)燃料電池の仕組みと実演(2)プログラミングロボット教室 (3)モノづくり体験(4)他 (子供向けの理科工作)</p> <p>ウ. 金ゼミ (代表：金 光林) 大学生の野菜と柿の栽培による農業体験と地域活性化へのチャレンジ</p> <p>エ. 柏崎研究所 (代表：春日 俊雄) 第 2 回柏崎学シンポジウム</p> <p>オ. 附属モンゴル文化研究所 (代表：橋本 次郎) 第 3 回モンゴル文化フェスタ in かしわざき)</p>

<p>(6)国際的研究の推進</p>	<p>① モンゴル文化研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モンゴル文化に関する学術調査研究関連では、新たにパソコン、スキャナー、プリンター等を購入し、研究所内に開架図書として配置されたモンゴル研究蔵書等の研究資料のデータベース構築を推進した。 <p>② 地域住民への国際理解促進・地域貢献のため、各種イベントを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「第3回モンゴル文化フェスタ in かしわざき（10月の学園祭期間）」では、留学生が中心となり、地域の住民と交流しながら以下の企画を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) モンゴル相撲大会 2) モンゴル民俗芸能 3) ゲル展示 4) モンゴル写真展示・モンゴル紹介 DVD 上映 5) モンゴルの遊戯体験 6) モンゴル料理試食会 等 ・ 平成31年1月に柏崎市文化会館アルフォーレ・マルチホールを会場として、「第2回モンゴル文化講演会」を行った。講師として、環日本海経済研究所のエンクバヤル主任研究員が「モンゴルの製造業の発展の歴史と今後の可能性」について講演した。
--------------------	--

2. 3 学生への支援

事業項目	平成30年度実施内容
<p>(1)学生行事・学生活動支援</p>	<p>① 学園祭など学生主催行事に対する支援を行った。</p> <p>② 公認部・サークル活動の学生加入を支援した。</p> <p>③ きめ細かく学生相談を実施した。</p> <p>ア. 学生課医務室職員（看護師・保健師）が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を実施した。</p> <p>イ. 学校医（精神科医師1人）と専門医（心身医療科医師1人）によるカウンセリングを毎月3～5回実施した。</p> <p>ウ. 基礎ゼミ担任とCLA協働で学生生活個別面談を実施した。</p> <p>エ. 全教員が「オフィスアワー」を実施した。</p> <p>オ. 「学生生活アンケート」や「学生意見箱」により学生からの意見・要望収集を行った。投書に対しては学生掲示板に回答を掲示した。</p> <p>カ. 学生の健康保持増進を図るため全面禁煙の移行期間として前年度設置していた臨時喫煙所を撤廃し、本学構内全面禁煙（平成30年度実施）の周知と屋内外点検活動を行った。</p>
<p>(2)経済的支援及び学費軽減</p> <p>※外国人留学生については「2.4 留学生</p>	<p>① 経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。</p> <p>② 人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。</p> <p>③ スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。</p>

<p>支援」を参照。</p>	<p>④ 大学契約借上げアパートを学生に安価で提供し、経済的負担軽減を行った。平成 30 年度は、新入生で入居希望した 7 名全員に対し提供し、2 年生 6 名は継続して提供した。(学籍異動により内 2 名が退去となった)</p> <p>⑤ 日本学生支援機構給付型奨学金 2 人、貸付型奨学金第 1 種 43 人・第 2 種 93 人、民間団体(公益財団法人古泉育英財団)給付型奨学金 1 人が採用された。</p>
<p>(3)学外団体との連携</p>	<p>① スポーツ競技団体や文化団体との連携支援 部活動(水球部、卓球部、サッカー部、ライフセービング部、バスケットボール部、芸術文化部、写真部、茶道部、書道部、吹奏楽部)と地域の団体や小中高校等との合同練習や連携活動を支援した。</p> <p>② 父母の会及び校友会との連携支援 ア. 父母の会総会及び支部総会開催時に、学生の修学状況等を保護者に報告した。また、保護者向けの「学生就職ガイダンス」を実施した。 イ. 校友会会報の制作に協力した。</p> <p>③ 新潟工科大学との交流支援 柏崎市民有志による 2 大学新入生合同歓迎会の企画及び運営を校友会学生と教職員が協働して行った。</p>
<p>(4)就職支援</p>	<p>① 6 年連続就職率 100%を達成した。(日本人学生) 就職希望率についても 96.4%と高く、目標の 90%を上回る結果となり、全国 4 大平均就職希望率 78.3%(平成 31 年 2 月 1 日現在)を大きく上回り、良好な結果を残せたものと判断する。</p> <p>② 柏崎・刈羽管内並びに県内企業へのインターンシップの奨励と地域に定着する就職者数の増加を目的に、本学キャリア基幹科目において以下の事業を行った ア. 授業科目「キャリアデザインⅠ」(1 年生対象) ・ 事業所見学 1 社(柏崎市消防本部) ・ 管内 4 事業所の担当者によるパネルディスカッション(阿部建設、柏崎市消防本部、柏陽鋼機、八幡開発) イ. 授業科目「キャリアデザインⅡ」(2 年生対象) ・ 県内・県外積極採用企業 6 社の OB や OG による座談会形式の業界研究会(柏崎市上下水道局、岡谷酸素、AOKI、新潟日産自動車、ホシザキ北信越、柏崎信用金庫) ウ. 授業科目「キャリアデザインⅢ」(3 年生対象) ・ 県内企業で働く入社 5 年目までの OB や OG による就職体験談(紳士服 AOKI、柏崎上下水道局、ホシザキ北信越、岡谷酸素、新潟日産自動車、柏崎信用金庫)</p> <p>③ キャリアポートフォリオの活用について「キャリアデザインⅠ」の授業において指導を行うとともに、受講者全員に対する個別面談を実施し、学生個々の目標建てについてアドバイスをを行った。</p>

④ 学生の付加価値づくりとして各種講座を実施した。特に簿記講座については、2級の合格者を出すことはできなかったが、昨年度の合格者（2級2名、3級2名）から大きく合格者（3級7名）を増やすことができた。

⑤ 留学生の就職希望者が少なかつたため、留学生就職支援を目的とした講座の実施は見送った。例年通りの個別指導の徹底により、留学生就職希望者6名全員が就職を果たした。

⑥ 学生の資格・検定等の取得支援を以下のとおり実施した。

1. 対策講座の実施

① 日商簿記検定 3級講座	全1回 (延 25 コマ)	受講者数	13人
② 日商簿記検定 2級講座	全1回 (延 38 コマ)	受講者数	1人
③ 日商簿記検定 2級講座	全1回 (延 107 コマ)	受講者数	延 6人
④ 経営学検定講座	全2回 (延 12 コマ)	受講者数	延 7人
⑤ MOS 講座	全4回 (延 40 コマ)	受講者数	延 20人
⑥ 福祉住環境コーディネーター	全1回 (15 コマ)	受講者数	4人
⑦ 公務員講座	全1回 (13 コマ)	受講者数	47人

2. 検定試験の学内実施

①中国語検定	全3回	...受検者数	延 2人
②経営学検定	全2回	...受検者数	延 13人
③ERE 経済学検定	全2回	...受検者数	延 2人

3. 資格等取得奨励奨学金の給付

延べ 10 人に奨学金を給付した。

2. 4 留学生支援

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)学習・生活支援	<p>① 学生チューターによる生活相談・学習支援・交流イベントの実施 学生チューター9人（日本人学生5人・モンゴル留学生4人）が、週1回、チューター・ミーティングを行い、留学生との交流活動及び生活支援等の計画を立て実施することを支援指導した。 学内イベントとしては、新入生歓迎会をはじめスポーツ大会、日本や外国の遊び体験、市内企業見学、留学生県内研修旅行、親睦会、新年会&送別会などを実施した。 また、学習支援として、年2回実施される日本語能力試験に向けた、日本語能力試験対策講座を実施した。</p> <p>② 教職員による留学生の生活・学習相談の実施 1年次、2年次の「基礎ゼミナール」において、担任教員とCLAが留学生の個別面談を実施し、生活面と修学面の指導を行った。ゼミナール担当教員、学生課職員等が留学生の相談窓口となって、個別相談にも随時対応した。 また、留学生の休学希望者に係る指導について、入管法に基づき安易な動機により休学中に早期入国及びアルバイトをしないよう審査を厳しく徹底し対応した。（対象：1人）</p> <p>③ 留学生の生活状況把握 月2回の「修学および生活状況について現状報告書」、年2回のアルバイト届を通して、留学生の生活全般の指導を実施した。学生課提出を義務付け、留学生の動静の確認、重要事項の周知、問題点の早期発見等に努めた。（現状報告書：50%・アルバイト届：70%弱・留学生数178名） 現状報告書の提出状況は、上位学年ほど悪いので、改善しなければならない。</p> <p>④ 入国管理局への在留関連申請取次業務 （財）入管協会が実施する「申請取次と出入国事務研修」を修了した学生課職員が、在留資格関係の取次業務を行った。</p>

	<p>⑤ 留学生の連帯保証 平成 29 年度に引き続き G T N 社 ((株)グローバルトラストネットワークス社) と連携し、留学生の連帯保証人代行について積極的に周知し指導を行った。</p> <p>⑥ 運転免許証及び任意保険加入の確認 自動車通学者に対し、日本免許証の所持や任意保険加入等の確認と指導を行った。</p> <p>⑦ 日本語学習支援 日本語学習支援として留学生全員に学期末に日本語能力試験に準ずる試験をレベル別を実施し、留学生の日本語能力向上に努めた。春学期と秋学期に N3 レベルの留学生一斉試験を実施し修学支援を行った(春: 80 名・秋: 76 名)。 日本語専任教員と連携し、学習サポートや生活支援等についてその方策を検討した。平成 29 年度に試行した、授業欠席者への指導を実施した。</p>
(2)経済的支援	<p>① 経済的に修学が困難な留学生に対する授業料減免 私費外国人留学生(留年者除く)で、減免の許可が認められた留学生の授業料を 40%減免した。</p> <p>② 本学独自の学習支援金給付 私費外国人留学生を選考審査し本学独自の学習支援金を給付した。申込者 11 人内受給者 5 人</p> <p>③ 日本語能力試験 (N1・N2) 合格者に対する給付金支給 日本語能力試験 (N1・N2) 合格者に対し給付金を支給し、受験を奨励した。</p> <p>④ 住宅費補助及び通学費等補助 入学時の留学生全員を対象に、住宅費補助及び通学費等補助を行った。</p> <p>⑤ アルバイト求人の開拓 地域と連携し、長期で安定したアルバイトを開拓し、留学生が生活しやすい環境を整えた。また、派遣会社 3 社と連携しアルバイト情報を発信した。</p> <p>⑥ 資格外活動の法令順守指導 資格外活動についての法令順守指導をガイダンスや掲示で行うとともに、年 2 回の「アルバイト届」提出時にも重ねて指導した。また、留学生の日本語能力に応じたアルバイト求人確保に努めた。</p>

2. 5 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)地域（新潟県内）からの学生確保	<p>① オープンキャンパスの充実</p> <p>ア. 6月から9月にかけて3週間間隔で6回開催した。</p> <p>イ. 在学生による本学のプレゼンテーションや大学施設案内により、本学の魅力や強み、学生の成長度を参加者にアピールした。</p> <p>ウ. オープンキャンパス参加者に学園祭模擬店チケットを配付し、本学へのリピート来校を図った。</p> <p>エ. 連携協定を締結した第一学院高校の生徒・保護者対象オープンキャンパスと個人見学会を実施し、合計17人の参加があった。</p> <p>② 高校訪問等の内容・方法の改善</p> <p>ア. 教職員による高校訪問や進学説明会において、教員と事務職員それぞれの観点から、本学の教育内容や学生支援策、入試制度等について分かり易く説明した。</p> <p>イ. 学生個別面談結果を有効活用し、訪問先高校出身学生の現況を高校教員に報告し、「人づくり大学」「面倒見大学」をアピールした。</p> <p>ウ. 出張講義の利用を促し、本学と各高校の関係強化及び高校生の本学への関心向上を図り、出張講義・体験授業は20回に増加した。</p> <p>③ 日本人学生募集担当の継続委嘱</p> <p>高校長経験者に委嘱し、5月から12月まで214回の高校訪問を行い、本学の教育内容等について説明を行った。その際、担当者の発案により作成したチラシを配付し、より分かり易い説明に努めた。</p> <p>④ 新潟産業大学附属高等学校との高大連携会議の実施</p> <p>同校とは高大連携会議を4回開催し、両校から15人前後の役職者・実務担当者が出席し情報交換に努めた。</p>
(2)スポーツ推薦入試による学生確保	<p>① 強化指定部の学生募集</p> <p>スポーツ推薦入学試験において募集定員の25%に当たる35人を目標に学生募集を行ったが、入学者は13人となった。</p>

(3)外国人留学生の確保	<p>① 海外留学生募集 海外入試において、長年関係を築いてきた中国内モンゴル自治区及びモンゴル国を重点募集地域として募集活動を行った。</p> <p>② 国内在住留学生募集 留学生募集業務委託契約者と協働して国内在住留学生入試を東京でも4回実施し、更に新潟県や長野県の日本語学校訪問や進学説明会への参加を継続しておこなった。</p>
(4)社会人学生の確保	<p>① 聴講生等への働きかけ 聴講生や科目等履修生、公開講座参加者に、社会人AO入試、長期履修制度、学費減免等を宣伝し、学び直しを勧めた。</p>
(5)ホームページの改善	<p>① 入試情報ページの改善 高校生のスマートフォンにターゲットを絞って作成した。受験生特設サイトは受験生や高校生に見やすさと分かり易さ、親しみ感をもたせたことで高い評価を得た。 高校生のスマートフォン利用を考慮したサイトの構築が出来たと評価する。</p>
(6)株式会社ウィザスとの業務提携	<p>学校法人柏専学院と株式会社ウィザスとの業務提携により、同社が運営する第一学院高等学校の各キャンパスにおいて出張説明会を開催するとともに、12月に同校生徒専用オープンキャンパスを開催した。</p>

(7)学生募集目標値の達成状況

(表) 平成 31 年度春学期入学試験の募集目標と結果 (単位：人)

	目標値	結果
附属高校（全入試区分に亘る。）	30	24
第一学院高校（全入試区分に亘る）	—	19
AO+指定校+自己推薦+一般入試+センター利用入試	40	52
スポーツ推薦入試（附属・第一以外）	30	11
国内在住留学生入試	20	32
海外留学生入試	20	11
社会人入試	若干名	0
合計	140	149

2. 6 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 30 年度実施内容																																																																																																																																																						
(1)地域連携センター事業	<p>① 地域活性化事業の推進</p> <p>平成 30 年度大学・地域連携事業として「松雲山荘紅葉ライトアップ調査事業」として春日講師が国内団体ツアー分野の調査を行った。10 月 27 日～11 月 25 日まで、毎日ツアーバス乗客に対するアンケート調査と、エージェント、観光バス事業者等へのヒアリングを実施した。また、詹教授がインバウンド分野の調査を行った。新潟県内インバウンドを扱っている旅行社 5 社を招聘し、柏崎市内の観光地を巡る一泊二日のモニターツアーを実施した。</p> <p>② 生涯学習事業の推進</p> <p>正規授業を一般に開放する「聴講講座（有料）」を実施し、地域に学びの場を提供した。</p> <p>春学期は 84 講座を開放して 23 講座に聴講があり、秋学期は 73 講座を開放し 20 講座に聴講があった。</p> <p>柏崎・刈羽以外の地域に対する聴講講座案内は、ダイレクトメール、ホームページ掲載等により行い、併せて「新潟産業大学生涯学習友の会」への加入勧誘を図り、会員数は平成 31 年 3 月末時点で 25 人となった。</p> <p>また、平成 30 年 10 月 21 日の学園祭開催時に大学キャンパスにて毎年恒例の「友の会意見交換会」を開催した。</p> <p>(ア) 聴講講座（春）</p> <p>23 の講座（1 講座 15 回）に延べ 49 人の聴講生が受講した。</p> <table border="1" data-bbox="464 1122 1453 1973"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西洋の芸術</td><td>梅比良 眞史</td><td>2</td><td>4/04～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>2</td><td>韓国語会話 A</td><td>金光林</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>3</td><td>越佐文化論</td><td>三井田忠明</td><td>2</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>日本経済論</td><td>江口潜</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>5</td><td>中国語演習 A</td><td>詹秀絹</td><td>7</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>6</td><td>日本史 I</td><td>小林健彦</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>7</td><td>スポーツ実習 A</td><td>小黒裕二</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>8</td><td>韓国語会話 A</td><td>蓮池薫</td><td>2</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>9</td><td>基礎文化論</td><td>梅澤精</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>10</td><td>文化経済学 II</td><td>梅澤精</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営情報論</td><td>石塚修</td><td>14</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>12</td><td>奈良美術の世界 I</td><td>片岡直樹</td><td>2</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>13</td><td>英語講読 A (a)</td><td>沼岡努</td><td>3</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>14</td><td>欧米文化事情</td><td>梅比良眞史</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>15</td><td>現代農業論</td><td>片桐民生</td><td>1</td><td>4/4～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>ヘルスサイエンス</td><td>岡田奈緒子</td><td>1</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>17</td><td>統計学 II</td><td>橋本次郎</td><td>1</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>18</td><td>日本文化論</td><td>小林健彦</td><td>1</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>19</td><td>日本の芸術</td><td>片岡直樹</td><td>1</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>20</td><td>中国文化事情</td><td>詹秀絹</td><td>2</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>21</td><td>ミクロ経済学演習 I</td><td>江口潜</td><td>1</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>22</td><td>基礎ミクロ経済学</td><td>宇都宮仁</td><td>1</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>23</td><td>基礎中国語 A</td><td>詹秀絹</td><td>1</td><td>4/5～7/24</td><td>15</td></tr> <tr> <td colspan="3">受講者計</td> <td>49</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	1	西洋の芸術	梅比良 眞史	2	4/04～7/24	15	2	韓国語会話 A	金光林	1	4/4～7/24	15	3	越佐文化論	三井田忠明	2	4/4～7/24	15	4	日本経済論	江口潜	1	4/4～7/24	15	5	中国語演習 A	詹秀絹	7	4/4～7/24	15	6	日本史 I	小林健彦	1	4/4～7/24	15	7	スポーツ実習 A	小黒裕二	1	4/4～7/24	15	8	韓国語会話 A	蓮池薫	2	4/4～7/24	15	9	基礎文化論	梅澤精	1	4/4～7/24	15	10	文化経済学 II	梅澤精	1	4/4～7/24	15	11	経営情報論	石塚修	14	4/4～7/24	15	12	奈良美術の世界 I	片岡直樹	2	4/4～7/24	15	13	英語講読 A (a)	沼岡努	3	4/4～7/24	15	14	欧米文化事情	梅比良眞史	1	4/4～7/24	15	15	現代農業論	片桐民生	1	4/4～7/24	15	16	ヘルスサイエンス	岡田奈緒子	1	4/5～7/24	15	17	統計学 II	橋本次郎	1	4/5～7/24	15	18	日本文化論	小林健彦	1	4/5～7/24	15	19	日本の芸術	片岡直樹	1	4/5～7/24	15	20	中国文化事情	詹秀絹	2	4/5～7/24	15	21	ミクロ経済学演習 I	江口潜	1	4/5～7/24	15	22	基礎ミクロ経済学	宇都宮仁	1	4/5～7/24	15	23	基礎中国語 A	詹秀絹	1	4/5～7/24	15	受講者計			49		
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																																																																																																																		
1	西洋の芸術	梅比良 眞史	2	4/04～7/24	15																																																																																																																																																		
2	韓国語会話 A	金光林	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
3	越佐文化論	三井田忠明	2	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
4	日本経済論	江口潜	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
5	中国語演習 A	詹秀絹	7	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
6	日本史 I	小林健彦	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
7	スポーツ実習 A	小黒裕二	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
8	韓国語会話 A	蓮池薫	2	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
9	基礎文化論	梅澤精	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
10	文化経済学 II	梅澤精	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
11	経営情報論	石塚修	14	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
12	奈良美術の世界 I	片岡直樹	2	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
13	英語講読 A (a)	沼岡努	3	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
14	欧米文化事情	梅比良眞史	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
15	現代農業論	片桐民生	1	4/4～7/24	15																																																																																																																																																		
16	ヘルスサイエンス	岡田奈緒子	1	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
17	統計学 II	橋本次郎	1	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
18	日本文化論	小林健彦	1	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
19	日本の芸術	片岡直樹	1	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
20	中国文化事情	詹秀絹	2	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
21	ミクロ経済学演習 I	江口潜	1	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
22	基礎ミクロ経済学	宇都宮仁	1	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
23	基礎中国語 A	詹秀絹	1	4/5～7/24	15																																																																																																																																																		
受講者計			49																																																																																																																																																				

(イ) 聴講講座 (秋)

20 の講座 (1 講座 15 回) に延べ 33 人の聴講生が受講した。

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	満州国の歴史と政策について	ウリジバヤル	2	9/21~1/28	15
2	奈良美術の世界Ⅱ	片岡直樹	2	9/21~1/28	15
3	地域経済学	江口潜	1	9/21~1/28	15
4	地域社会学	梅澤精	1	9/21~1/28	15
5	比較文化論	ウリジバヤル	2	9/21~1/28	15
6	ミクロ経済学Ⅱ	阿部雅明	1	9/21~1/28	15
7	金融論	宇都宮仁	1	9/21~1/728	15
8	ゲーム理論	江口潜	1	9/21~1/28	15
9	英語講読 B (b)	黒川 敬三	1	9/21~1/28	15
10	英語講読 B (a)	沼岡 努	3	9/21~1/28	15
11	心理学	岡田奈緒子	1	9/21~1/28	15
12	基礎韓国語会話 A	蓮池薫	1	9/21~1/28	15
13	西洋史	沼岡努	1	9/21~1/28	15
14	中国語演習 B	詹秀絹	6	9/21~1/28	15
15	韓国語会話 B	金光林	1	9/21~1/28	15
16	ビジネス法務Ⅱ	山崎修	1	9/21~1/28	15
17	韓国文化事情	蓮池薫	3	9/21~1/28	15
18	観光学	春日俊雄	1	9/21~1/28	15
19	環境とエネルギー	アブドゲニィ	1	9/21~1/28	15
20	日本の伝統芸能	三井田 忠明	2	9/21~1/28	15
		受講者計	33		

③ 柏崎市との連携講座実施

柏崎市が主催する「かしわざき市民大学」等において、市民や地域社会の文化的活性につながる講座を開講した。(6 講座)

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	日本美術史講座 ～奈良美術への誘い～ (かしわざき市民大学)	片岡 直樹	45	6/22,6/29、7/6、 7/13	4
2	知っておきたい福祉住環境の 基礎知識 (かしわざき市民大学)	平野 実良	8	6/6、6/13、 6/25、6/27 7/4 7/7	6
3	地域通貨による地域活性化 (かしわざき市民大学)	宇都宮 仁 平野 実良	3	6/5,6/12、6/19、 6/26	4
4	人口減少と地域社会の有り様 ～地域づくりの来し方行く末 について (かしわざき市民大 学)	春日 俊雄	18	6/11、6/18、7/2 7/9	4
5	人口減少と地域社会の有り様 ～これからの町内会・自治会に 求められること	春日 俊雄	13	10/15 10/22	2
6	観光地域づくり考 ～住んでよし訪れてよしの地 域を創る	春日 俊雄	13	11/19 11/26	2
		受講者計	100		

④ その他の公開講座実施
「公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団」の助成金による講座を開講した。(9 講座)

No.	講座名	講師名	期日	回数
1	サイエンス教室 IN コミセンの開催	アブドゲニイ アブドレヒミ	6/3,8/3,8/5, 8/25,10/28	5
2	大学生の野菜と柿の栽培による農業体験と地域活性化へのチャレンジ	金 光林	4/1～H31.3/31	1
3	第3回モンゴル文化フェスタ In かしわざきの開催	橋本 次郎 (代表)	10/20,21 H31.1/14	2
4	第2回柏崎学シンポジウム	春日 俊雄	10/7	1
5	出展・実演：分光シートを用いた光万華鏡の作製 (ガールスカウト新潟県第一団 発団)	アブドゲニイ アブドレヒミ	5/12	1
6	モノづくり体験： 粘土遊び感覚で可愛い動物キャンドルをつくろう (柏崎親子ワンダーランド)	アブドゲニイ アブドレヒミ	8/5	1
7	燃料電池の実演：小型の水素燃料電池の実演 理科工作：分光シートを用いた万華鏡の作製 モノづくり体験：粘土遊び感覚で可愛い動物キャンドルをつくろう (新潟産業大学 学園祭内で開催)	アブドゲニイ アブドレヒミ/ 藤井 信行	10/20	1
8	ロボット体験・ドローン体験 (刈羽村文化祭)	アブドゲニイ アブドレヒミ	11/4	1
9	講演会：「エネルギーと環境問題から考えたベストな自動車」/ 「自動運転技術～現状と今後の動向～」, 講座：親子ロボット教室 (柏崎フォーラム・ワークショップ)	アブドゲニイ アブドレヒミ/ 藤井 信行	11/17	1

⑤ 地域活動への参加

7月25日、ぎおん柏崎まつり二日目の「たる仁和賀パレード」に、「新潟産業大学御輿」を出し、学生・教職員計65人が参加した。この他にも地域連携センターが窓口となり、学生ボランティアの派遣等を行い、地域や学外団体からの要請に積極的に応えた。教員による講演会・講習会は35回、教員や学生のイベント参加は36回である。

(2) 学生主体の地域連携活動

① 地域行事への参加

学生及び教職員が、風の陣、潮風マラソン、ぎおん柏崎まつり、コミセン祭等の市内外で開催される行事に参加した。

② 学生によるラジオ番組放送

毎月2回金曜日の19時から20時の時間帯で、本学放送部の学生部員の企画・制作・出演による生番組を放送した。

③ 「地球くらぶ」(国際的教養体験イベントの開催)

中国・内モンゴル・ベトナム・バングラディシュの留学生が講師となって、児童クラブに通う小学生を対象に、外国文化や言語などを楽しく学ぶイベントを実施した。(8月21日(火)北条児童クラブ参加児童30人)

④ 「大学生、高校生の情報発信力向上講習会及び演習プログラム」の実施

主に大学生を対象に、一部授業において、デザインソフトの操作法や地域活性化につながるコンテンツ制作に関する内容の講義、演習を実施した。また、大学地域連携活動に係るチラシ、パッケージ等のデザイン依頼を受けた学生たちに個別指導を実施した。

地域に発信した制作物は下記のとおりである。

- ・ 「産大生と地域のかげ橋 ローカレッジ」 Vol.8
- ・ 「産大生と地域のかげ橋 ローカレッジ」 Vol.9
- ・ 信濃川流域火焰型土器ガイドマップ

⑤ 地域通貨事業の推進

様々なボランティア活動を行った学生に地域通貨を配付し、柏崎市内の提携商店での購買に繋げた。また、「まちかど研究室」に稲作と風輪通貨に関する説明パンフレットや活動写真を展示することにより、市民への本事業の周知に努めた。さらに、地域通貨事業の原資となる米菓等をえんま市で販売し商店街活性化の一助とした。

⑥ 地域連携活動の学外 PR 活動

平成30年度では、他の地域連携活動と連動させて、下記イベントで大学×地域コラボ商品の販売を行った。参加学生は販売時の接客を通じて、コミュニケーション力を向上させるとともに、学生が携わった商品の説明を行うことで、地域活性化や地域資源への理解を深め、地元就職への意識が高まった。

また、「COC+地域活動・学生発表交流会」や「柏崎に関する研究発表会」で活動報告を行った。

<p>(3)連携協定に基づく取り組み</p>	<p>① 「柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定」にもとづき、つぎの平成 30 年度委託事業を受託した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「市街地商店街の空き店舗活用事業「まちかど研究室」の展開「魅力発信事業」（新潟産業大学・新潟工科大学共同受託）として、両大学学友会連携イベント、ゼミ・団体によるプロジェクト、市民向け講座の 3 つを柱に以下の活動を行った。 <p>【二大学共同プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まち研スタンプラリー@商店街」 ・ 柏崎 PR 動画制作「みてかしわざき」 ・ グリーンボードによる清掃活動 ・ COC+地域活動・学生発表交流会への参加 ・ まちづくりワークショップの実施 <p>【ゼミ・団体によるプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちかど研究室 café」 ・ 国際理解セミナーウィークに、バングラデシュ・ネパール・ベトナム出身の留学生が講師をつとめた。第一部は、講師による母国の紹介、第二部は講師の国の食べ物・飲み物を紹介して交流を深めた。 <p>【市民向け講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語サロン、戊辰戦争後の柏崎の動き、私にも描ける！はじめての似顔絵ワークショップ」、美術は美しいものではない、書道とふれあいの会を実施した。 <p>【えんま市、ぎおん柏崎まつりでの出店】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度同様まち研スペースを活用して地域コラボ商品等を販売した。 <p>【ウインターイルミネーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月初旬～2 月下旬に設置した。 <p>【柏崎に関する研究発表会】での活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 月に二大学の学生が発表を行った。 <p>【SNS による情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ facebook ページとツイッターにより情報発信を行った。 <p>② 「かしわざき広域ビジネス応援ネットワーク」に係る活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡協議会に参加し、構成機関との情報交換を行った。 <p>③ 「共に支え合う域学連携に関する協定書」に基づく活動を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学教員と学生が荻ノ島集落の持続的な農の里づくりに係る活動と同地区住民との交流活動を行った。 <p>④ 「新潟産業大学と柏崎信用金庫との連携に関する協定書」に基づく地域産業の振興と人材の育成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会の発展に寄与することを目的とし、最初の取り組みとして RESAS を活用した共同研究を行った。
------------------------	--

	<p>⑤ 柏崎市の審議会・協議会等への教職員派遣</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 柏崎市人権教育・啓発推進協議会委員 2) 柏崎市環境審議会委員 3) 柏崎市情報公開・個人情報保護審査会委員 4) 柏崎市立博物館運営協議会委員 5) 柏崎市男女共同参画審議会委員 6) 柏崎市文化財保護審議会委員 7) 柏崎市都市計画審議会委員 8) 柏崎市文化財保護審議会委員 9) 柏崎市指定管理者選定委員会委員 10) 柏崎市廃棄物減量等推進審議会委員 11) 柏崎市行政不服審査会委員 12) 柏崎市公益通報等審査委員会委員 13) 柏崎市元気なまちづくり事業補助金審査員 14) 柏崎市福祉有償運送運営協議会委員 15) 柏崎市健康づくり推進会議委員 16) 柏崎市入札監視委員会委員 17) 柏崎市スポーツ推進審議会委員 18) 柏崎リーダー塾運営協議会委員 <p>⑥ 平成 30 年度刈羽村委託事業</p> <p>平成 30 年度 刈羽村委託事業「大学生による刈羽村の観光資源発掘のための PR 動画制作」を受託した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刈羽村の観光地、観光施策、イベント、特産品など、新たな観光資源の発掘 ・ 刈羽村の観光を P R するための企画の実施 <p>刈羽村生涯学習センターラピカ主催「笑顔の村かりわ みんなで作る写真展」との連動企画として、フォトコンテストを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報映像作品の制作 ・ 3 月中旬事業報告会を兼ねて「刈羽村広報映像作品完成披露試写会」を権田ゼミ生主体で行った。
(4)水球のまち柏崎への協力体制	<p>① 青柳勸経済学部助手をブルボンウォーターポロクラブ柏崎（GM）に出向させた。（出向期間（予定）：平成 29 年 4 月 1 日～令和 2 年 9 月 30 日）</p>

(5)新潟県委託調査	<p>① 平成 30 年度県内就職につながる学びの場づくり支援事業の受託</p> <p>「新潟の産業・企業を知る講座」を実施した。事業は、座学とフィールドワークで構成し、座学は柏崎をはじめとしたその周辺地域を中心に、さまざまな分野のエキスパート講師を招聘し、充実した授業を展開した。フィールドワークでは、座学で学んだ基礎知識を活かし、職業現場を体験することで、自身のキャリアデザインに対する意識を身に付けるきっかけとすることができた。</p>
------------	---

2. 7 国際交流

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)地域における国際交流	<p>① 地域の小中高等学校等との交流を行った。 小学校の国際交流・国際理解の行事などに留学生を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柏崎市立北鯖石小学校の「ESD 集会」母国の紹介・言語・音楽・遊びなどについて講師をつとめた。(モンゴル 2 人・バングラデシュ 1 人・ベトナム 1 人・ネパール 1 人・ウズベキスタン 1 人) ・ 刈羽村立刈羽小学校の「国際セミナー」にて講師をつとめた。(モンゴ 2 人・バングラデシュ 1 人・ベトナム 2 人・ネパール 1 人) <p>② 柏崎地域国際化協会の事業に参加した。 留学生を派遣し、柏崎市民との交流や市民へのサポート活動を行った。また、ホームステイを通じて、留学生が日本の一般家庭を体験すると共に、母国の文化を紹介して相互理解を深めた。</p> <p>(ア) 「コミュニケーションツールゆびさし会話帳」に参加し市民の方と交流をしながら勉強会を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本語とボランティア」多分化共生ボランティア人材育成事業に参加した (中国 2 人・ベトナム 1 人) ・ 「日本語支援者のために講座」多分化社会を支える日本語教室 (市民プラザ) (中国 2 人) ・ 「多文化社会を支える日本語教室」に 2 名が参加した (中国 2 人) ・ 「日本文化体験 茶道」に留学生 3 人が参加した。(ベトナム 1 人「通訳の手伝いあり」・モンゴル 2 人) <p>③ 地域の諸団体との交流を行った 柏崎市及び刈羽村のコミュニティーセンターや各種団体へ留学生を派遣し、母国の文化や言語・習慣などの紹介を通して多文化理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「小学生お仕事体験塾」に受付等のボランティアに参加した。(中国 1 人・モンゴル 3 人) ・ 刈羽村文化祭の食フェスにモンゴルの遊びや食を通して村民と交流を行った。(モンゴル 5 人) ・ NPO 法人チャレンジ夢クラブ主催の「異文化交流でアジアを知ろう」に参加した。第 1 部では、バングラデシュ、ネパール、モンゴルの紹介を行った。第 2 部では、モンゴルの歌や馬頭琴の演奏し、最後に、民族衣装を着てファッションショーを行い西山町の地域住民と交流を深めた。
	<p>④ 「私の主張 in 産大柏崎」を開催した 留学生や日本人学生から発表者を募り、スピーチコンテストを開催し、地域の国際交流と多文化理解に寄与した。</p> <p>私の主張 in 産大 実行委員会と新潟産業大学留学生交流会主催で、県内留学生や日本人学生、高校生から発表者を募り、10 月 21 日にスピーチコンテストを開催した。(参加者：中国 4 人・モンゴル 2 人・ベトナム 1 人・ウズベキスタン 1 人・バングラデシュ 1 人)</p>

	<p>⑤ 柏崎中央ロータリークラブ主催「留学生懸賞論文（注）」への協力 同クラブが毎年実施している同事業に協力した。応募資格は本学と新潟工科大学に在学している留学生で、論文テーマは「留学生からの提言」。サブテーマ「暮らし」、「観光」、「経済」、「エネルギー問題」、「柏崎の自然」、「働き方」、「国際交流」、「自国と日本の最新の経済関係」、「自国と日本の最新の技術交流」の9項目を設けて実施した。準優秀賞2人、佳作1人、努力賞2人、参加賞3人。</p> <p>⑥ 新潟県国際交流協会に交流委員として留学生を派遣した 柏崎市内のみならず、新潟県内の国際交流に参加し、広域にわたり交流を深めた。 平成30年度新潟県国際交流委員として3人採用になった。 (モンゴル1人・ベトナム2人)</p>
(2)海外学術交流協定校との交流	<p>海外の大学間交流協定校の黒竜江大学、哈爾濱師範大学、集美大学(以上中国)、明道大学(以上台湾)等と、以下の交流を行った。</p> <p>① 短期留学受入…海外協定校から1年間の交換留学生を受け入れる。</p>

3 大学院経済学研究科

3. 1 教育及び研究指導の改善

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)自己点検評価に基づく教育改善	① 院生の学修成果の測定を客観的に行うための評価指標の開発に着手した。
(2)ファカルティ・ディベロップメントの充実	<p>① FD活動の一環として研究報告会を開催した。 日 時：平成 31 年 1 月 23 日(水) 16：00～17：30 テーマ：「事例ベース意思決定理論(CBDT)のマーケティングへの適用」 報告者：郷香野子助教 大学院担当教員に加え学部教員も研究報告会に参加した。</p> <p>② 教員相互の授業見学実施 「管理会計特論 I」の授業を大学院担当教員 3 名で見学した。 見学者により報告レポートが作成され、研究科長が結果を検討し、研究科委員会にて議論した。</p> <p>③ 大学院授業改善アンケートの実施 院生の意見や要望の授業への反映、更なる授業改善のために、演習を除く全科目について授業改善アンケートを実施した。後日、研究科長による大学院生へのインタビューを 7 月と 12 月の 2 回実施し、その内容を研究科委員会において報告し、議論した。</p>

3. 2 学生指導

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1)履修指導・研究指導	<p>① 院生の幅広い分野にわたる課題研究に対応するため、研究指導教員、研究指導補助教員の間で院生の履修状況、出席状況や研究課題を高度に共有した。</p> <p>② 院生への履修指導に、授業科目の位置付けや難易度を可視化したナンバリングと履修登録の指針を示した履修モデル表を活用した。</p>

3. 3 学生募集

事業項目	平成 30 年度実施内容
(1) 学生募集活動の立案と実施	<p>① 学部生を対象に学内で大学院進学説明会を 7 月と 12 月の 2 回開催し、入試の概要、授業、修士論文、学費などについて詳細な説明を行った。</p> <p>② 県内及び近県の社会科学系統大学へ「募集要項」を頒布した。</p>

II 新潟産業大学附属高等学校

1 概況

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ！進路で輝け！」を合言葉に掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され期待される新潟産業大学附属高等学校を目指した。部活動においては卓球部が新潟県高等学校総合体育大会学校対抗戦男子で連覇を果たし、インターハイでベスト 16 を達成した。陸上部は新潟県高等学校駅伝競走大会（女子）で3連覇し、全国高等学校総体女子 3000m4 位、女子円盤投げ 8 位と二種目入賞するという輝かしい結果を残した。また、国体でも男子走り幅跳び 4 位、女子 3000m4 位と全国に名を轟かせた。そして、野球部は全国高等学校野球選手権新潟大会において第 3 位という 55 年ぶりの快挙を成し遂げた。

進路においては、進学では 9 年連続で国公立大学への合格を果たし、就職では 100% の内定率であった。

また、募集活動や広報活動では数多くの中学校訪問を行い、高校説明会の度に、当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう懸命に努力した。

2 部活動実績及び進学実績

事業項目	平成 30 年度実施内容																																
(1) 部活動実績（全国大会レベルに挑戦）	<p>県高等学校総合体育大会に 181 人（昨年度 173 人）が会場し、北信越高等学校体育大会（ゴルフは関東大会）に 103 人（昨年度 60 人）が会場した。インターハイ等全国大会出場者数は延べ 52 人（昨年度 30 人）に達した。</p> <p>①卓球部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新潟県総合体育大会卓球競技 <table style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-left: 20px;"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>優勝</td></tr> <tr><td>女子学校対抗</td><td>5 位</td></tr> <tr><td>男子シングルス</td><td>優勝</td></tr> <tr><td>男子ダブルス</td><td>優勝</td></tr> </table> ○北信越高等学校総合体育大会卓球競技 <table style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-left: 20px;"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>3 位</td></tr> <tr><td>男子シングルス</td><td>出場</td></tr> <tr><td>女子シングルス</td><td>出場</td></tr> <tr><td>男子ダブルス</td><td>5 位</td></tr> <tr><td>女子ダブルス</td><td>出場</td></tr> </table> ○全国高等学校総合体育大会卓球競技 <table style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-left: 20px;"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>ベスト 16</td></tr> <tr><td>男子シングルス</td><td>3 回戦進出</td></tr> <tr><td>男子ダブルス</td><td>3 回戦進出</td></tr> </table> ○北信越高等学校選抜卓球大会 <table style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-left: 20px;"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>3 位</td></tr> </table> ○全日本卓球選手権大会 <table style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-left: 20px;"> <tr><td>男子ジュニア</td><td>出場</td></tr> <tr><td>男子ダブルス</td><td>出場</td></tr> </table> ○全国高等学校選抜卓球大会 <table style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-left: 20px;"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>ベスト 16</td></tr> </table> <p>②陸上競技部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新潟県高等学校総合体育大会 	男子学校対抗	優勝	女子学校対抗	5 位	男子シングルス	優勝	男子ダブルス	優勝	男子学校対抗	3 位	男子シングルス	出場	女子シングルス	出場	男子ダブルス	5 位	女子ダブルス	出場	男子学校対抗	ベスト 16	男子シングルス	3 回戦進出	男子ダブルス	3 回戦進出	男子学校対抗	3 位	男子ジュニア	出場	男子ダブルス	出場	男子学校対抗	ベスト 16
男子学校対抗	優勝																																
女子学校対抗	5 位																																
男子シングルス	優勝																																
男子ダブルス	優勝																																
男子学校対抗	3 位																																
男子シングルス	出場																																
女子シングルス	出場																																
男子ダブルス	5 位																																
女子ダブルス	出場																																
男子学校対抗	ベスト 16																																
男子シングルス	3 回戦進出																																
男子ダブルス	3 回戦進出																																
男子学校対抗	3 位																																
男子ジュニア	出場																																
男子ダブルス	出場																																
男子学校対抗	ベスト 16																																

優勝 6種目
 入賞 29種目 男子 100m・200m・400m・4×100mR
 4×400mR・走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳
 砲丸投・円盤投・やり投・八種競技
 女子 100m・200m・3000m・100mH
 400mH・5000mW・4×100mR
 4×400mR・走高跳・棒高跳・三段跳
 砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投・七種競技

※学校対校 男子 優勝 女子 3位

○北信越総合体育大会
 男子 200m 5位
 400m 5位
 4×100mR 優勝
 棒高跳 6位
 走幅跳 優勝
 砲丸投 7位
 円盤投 4位・7位
 やり投 2位
 八種競技 8位
 女子 3000m 2位
 棒高跳 2位
 円盤投 2位

※学校対校 男子 2位

○全国高等学校総合体育大会
 男子 200m・400m・4×100mR
 走幅跳・棒高跳・円盤投・やり投 出場
 女子 3000m 4位入賞
 円盤投 8位入賞
 棒高跳 出場

○全国選抜大会
 男子 スプリントトライアスロン 出場(47位)
 女子 2000m(OP) 優勝

○新潟県選抜陸上競技大会
 優勝 3種目
 入賞 20種目 男子 400m・5000m・110mH
 4×100mR・4×400mR・走高跳
 砲丸投・円盤投・やり投・八種競技
 女子 3000m・100mH・400mH
 5000mW・4×100mR
 棒高跳・三段跳・円盤投・やり投・七種競技

※学校対校 男子 3位 女子 3位

○国民体育大会(愛媛)
 男子 少年A走幅跳 4位入賞
 女子 少年A3000m 4位入賞
 少年共通円盤投 19位

○北信越新人大会
 男子 5000m 出場
 110mH 3位
 砲丸投 3位
 円盤投 3位・4位
 八種競技 8位・9位
 女子 100mH 7位

5000mW 7位
4×100mR 7位
棒高跳 4位・9位・10位
三段跳 13位
やり投 16位

○U20日本陸上競技選手権大会

男子 走幅跳 出場

女子 円盤投 出場

○第48回ジュニアオリンピック

男子A 110mJH 3位入賞

○新潟県高等学校総合体育大会 駅伝競走大会 女子 優勝

○北信越総合体育大会 駅伝競走大会 女子 出場

○全国高等学校駅伝競走大会 女子 42位

第2区 区間4位

③ソフトテニス部

○県高等学校総合体育大会 男子団体戦ベスト8

男子個人戦ベスト16

○北信越高等学校体育大会 男子個人戦に出場

○県選抜インドア大会 男子団体戦2位

○北信越選抜インドア大会 男子団体戦 出場

④ゴルフ部

○第20回 新潟県ジュニア選抜競技会 11位 17位

○第21回 県知事杯新潟県ゴルフ選手権 女子の部 15位

○平成30年度第71回 新潟県高等学校総合体育大会ゴルフ大会

女子個人の部 5位

○平成30年度第71回 新潟県高等学校総合体育大会ゴルフ大会

男子団体の部 2位

○平成30年度 関東高等学校ゴルフ選手権

女子個人の部 25位

○平成30年度 関信越高等学校ゴルフ選手権大会

男子 団体の部 7位

男子 個人の部 19位

○第21回 新潟県ジュニアゴルフ競技会

高校男子の部 優勝 5位 7位

高校女子の部 7位

○第44回 新潟県アマチュアゴルフ選手権 10位

⑤水泳部

<競泳>

○第71回新潟県高等学校選手権水泳競技大会

女子100m背泳ぎ 3位

女子100m平泳ぎ 4位

女子100mバタフライ 3位

女子200m背泳ぎ 4位

女子200m平泳ぎ 3位

女子200m個人メドレー 1位

○第51回北信越高等学校選手権水泳競技大会

女子100mバタフライ 7位

女子 200m背泳ぎ 6位

女子 200m平泳ぎ 6位

女子 200m個人メドレー 3位

○平成 30 年度全国高等学校総合体育大会・日本高校選手権水泳競技大会競泳競技に女子 1 名が出場

<ライフセービング>

○全日本ライフセービングプール競技選手権大会

高校女子 100mマネキントゥ・ウィズフィン 3位

○第 10 回全日本ユースライフセービング選手権大会

高校女子の部 サーフレース 1位

○第 44 回全日本選手権大会

レスキューチューブレスキュー女子 4位

ボードレスキュー女子 8位

ビーチリレー女子 8位

オーシャンウーマンリレー 10位

○第 6 回全日本ジュニア・ユースライフセービングプール競技会

50mマネキンキャリー高校女子 3位

100mマネキントゥ・ウィズフィン高校女子 4位

<水球>

○第 29 回北信越高等学校春季水球競技大会 準優勝

○第 51 回北信越高等学校選手権水泳競技大会水球競技 準優勝

○平成 30 年度全国高等学校総合体育大会・日本高校選手権水泳競技大会水球競技 出場

○第 36 回北信越高等学校水球競技新人大会 準優勝

○第 5 回全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会(かしわざき潮風カップ) 3位

⑥男子バスケットボール部

○新潟県高等学校総合体育大会バスケットボール競技会

男子 3位

○第 7 1 回全国高等学校バスケットボール選手権大会新潟県予選会

男子 ベスト 4

⑦女子バスケットボール部

○県高等学校総合体育大会 ベスト 8

○全国高等学校選抜優勝大会新潟県予選会 ベスト 8

○第 47 回 BSN 杯高等学校バスケットボール大会 ベスト 8

⑧サッカー部

○県高等学校総合体育大会 ベスト 16

○全国高校サッカー選手権大会新潟県大会 ベスト 8

○高田宮杯 U-18 サッカーリーグ 2018 新潟県リーグ 1 部 6位

⑨野球部

○第 100 回全国高校野球選手権新潟県大会 ベスト 4

○秋季北信越地区高校野球新潟県大会 ベスト 8

2) 進学実績	<p>進学実績（大学・短期大学進学率 52.7%、専修学校 23.3%）</p> <p>※昨年度大学・短期大学進学率 53.7%、専修学校 20.8%</p> <p>① 4年制大学進学率は 47.3%であった。</p> <p>※昨年度大学進学率 52.8%</p> <p>② 9年連続で国公立大学合格者を輩出した。</p> <p>③ AO、指定校推薦、公募制推薦だけでなく、一般受験での合格も見られた。</p> <p>取り組み</p> <p>① 夏期特進講座（5日間、国語・数学・英語各5時間）・冬期特進講座（5日間、国語・数学・英語各5時間）・サマーゼミ（2泊3日の学習合宿、国語・数学・英語各5時間、個別指導等6時間）・春期特進講座（5日間、国語・数学・英語各5時間）は前年度と同様に計画・実施した。</p> <p>サマーゼミは、全学年を対象に北志賀高原にて実施した。</p> <p>② 大学進学プログラム</p> <p>月・火・木・金曜日の8限及び水曜日の7・8限と土曜日の1～3限を利用し、大学進学に向けた学力向上を図った。</p> <p>③ 高大連携教育（ブリッジプログラム）の実施</p> <p>1年生のフレッシュャーズセミナー等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施できた。</p>
---------	---

3 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

事業項目	平成30年度実施内容
(1) 生徒への支援	<p>【教務部】</p> <p>《今年度の重点事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度新教育課程の実施と検証 ・低学力者等のための支援教育体制の確立 ・有効な広報活動計画の作成 ・適切な教育環境の充実 ・平成30年度入学試験の改革の検証 ・期間を限定した授業規律向上の取り組み <p>《具体的な取り組み》</p> <p>① 新学習指導要領を意識した教育課程を実施・検証する。</p> <p>② 授業以外の学習習慣がない生徒が少なくなく、定期考査等で成功体験を味わわせ、自信につながるよう出題内容や方法に工夫をする。</p> <p>③ 学校案内を改訂し、特に部活動PRのページを多くした。オープンスクールにもより多くの中学生、保護者に参加してもらうよう工夫した。</p> <p>④ 電子黒板（固定式3台、移動式2台）を利用した授業を行った。</p>

⑤スポーツ特別推薦、部活動専願の指定部にバドミントン部を加えた。

《結果》

- ①改善すべき点の指摘がなく、適切に運用されている。
- ②一部の生徒が学習に前向きに取り組み始めたが、全体的にはまだ十分とは言えない。
- ③各部活動の部員の全体写真を載せたことで、部員数の多さをPRできた。柏崎・刈羽地区の中学校卒業生徒数は減少しているが、オープンスクールには例年並みの参加数となった。
- ④視覚に訴えることができ、生徒の集中力が増した。
- ⑤部活動専願入試をバドミントンで1名が受験・合格した。

【生徒指導部】

《今年度の重点事項》

- ・規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ・生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助
- ・制服の正しい着用

《具体的な取り組み》

- ①基本的な生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と転・退学者の防止
保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧な指導し、中途退学者を減らす努力をした。
HR担任を中心とした教育相談を充実させる。
- ②校内規律の確立（制服・頭髪・言葉遣い）と社会のルールの遵守、制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し改善させた。また登下校時の制服の着用を徹底させた。
- ③学業に不必要な物品等を持ち込まない指導
ゲーム機、音楽プレイヤー、カード類、雑誌類、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。特にSNSでのトラブルが起きないように指導した。
- ④立哨指導、巡視指導
生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指導を学期ごとの始めに実施した。
授業巡視や授業中にチェックシートを使い、生徒指導を行った。
- ⑤長期休業の事前指導
夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前指導を実施した。また、保護者にも文書を配布し、期末PTA等で協力をお願いした。
- ⑥生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施
- ⑦シャツ出し禁止、スカートの正しい着用、ネクタイの正しい着用等

の身だしなみの取り組みを年間通して指導をした。

⑧いじめアンケートを毎学期実施した。

《結果》

①無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問や面談を通して状況把握ができた。

②頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。

③授業姿勢、雰囲気は向上し、生徒教師共に相乗効果があった。

④挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守に効果があった。

⑤長期休業中の事故はなかった。

SNSでのトラブルにより生徒指導が1件あった。

⑥北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場した。野球部の大会で全校応援を行った。

⑦正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はルール遵守の重要性が理解できた。

⑧いじめアンケートを定期的に行い、未然に防ぐことができた。

【進路指導部】

《今年度の重点事項》

- ・大学等進学率 70%以上を目指す。
- ・国公立大学や難関私立大学合格者数の増加
- ・新潟産業大学への進学者の増加
- ・就職内定率 100%を目指す。

《具体的な取り組み》

①進路の手引きの改訂

②資料の蓄積・整理と生徒への激励

③カレッジコースの1年から3年までの一貫した進路指導

④大学進学者の増加策

ア. 教務部と連携し、朝学習（小テスト）や大学進学プログラムの実施

イ. カレッジコースだけでなく、大学進学志願者にもセンター試験を受験させる。

ウ. 国公立大学や難関私立大学の合格者を増やすために、学力の高い生徒に対し志望校を早期設定させ、推薦選抜入試対策として小論文・面接指導等の指導を徹底する。

エ. ラーナーズクラブの強化と同時に、勉強をしたい生徒を集め、第一志望大学に合格することを目標として活動し、国公立大学や難関私立大学の合格者増に繋げる。

オ. 大学進学に意欲ある生徒を発掘し、個別指導を徹底する。

カ. 「受験サプリ」を有効に活用し、学力伸長を図る。

⑤履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる。

⑥積極的な求人先の開拓と就職内定への指導の徹底

⑦ファインシステムの活用（ベネッセコーポレーション）

ア. 学年・教科分析

イ. クラス成績分析

ウ. 個人成績分析

⑧広報による啓発活動

《結果》

- ①進路の手引きを改定し、全校生徒・保護者に配布した。進路希望調査を毎学期実施し、教師の指導もあり進学志向が高まった。
- ②進路指導室について、生徒が利用しやすいスペース造りや資料の提示をしたことから、利用する生徒が増えた。また、センター試験激励会を開催し、試験前日は校内で、盛大に受験生の激励を行ない、試験当日も会場で激励を行った。
- ③カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を毎学期行い、モチベーションを高めた。
- ④大学進学者の増加策として、進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試対策の指導やラーナーズクラブ(勉強部)の指導を行い、大学進学者数の底上げを図り、国公立大学へは1名、中堅私大にも数名合格することができた。また、3学年ともに「ベネッセの学習支援サービス」(classi)に加入し、いつでもどこでも学習できる環境を備えた。さらに、「サマーゼミ(学習合宿)」を実施し、学習習慣と効率的な学習法を身に付けることができた。
- ⑤履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励し、「5t未満クレーン」「アーク溶接」「低圧電気」等の資格を取得させた。また、「手話講座」を行い、柏崎市職員の方から指導を受け、基本的なものを特技の一つとして体得した。
- ⑥新たな求人先の開拓を目指し、積極的に企業訪問を行った。就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験対策の指導を行い、事前学習・準備を促すことができた。校内開催のハローワーク相談室では、職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、「就職ガイダンスⅠにおいては、就職試験までのプロセスや就職試験の厳しさ等の説明をし、概ね理解できた。さらに、厚生労働省主催による就職ガイダンスⅡでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身に付けた結果、求職者全員が内定した。就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施し、「社会でのマナー」について、キャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感を持たせることができた。
- ⑦ベネッセの模擬試験によるデータを活用しながら、生徒個々の進路指導に役立てることができた。
- ⑧進路指導ニュース「部活で燃えろ!進路で輝け!」を入学式、卒業式等に発行し、保護者の進路に対する意識付けを行い、本校をPRする活動の一助にもなり、「生徒募集」に役立った。

4 生徒募集

事業項目	平成 30 年度実施内容
<p>(1) 中学校訪問の強化 (長岡・上越地域の生徒の増加のために)</p>	<p>中学校訪問は、午後から授業のない考査期間中に 4 回実施した。</p> <p>○第 1 回中学校訪問 (広報活動、情報収集) 6 月 29 日 (金)、7 月 2 日 (月) 79 校 (昨年度 79 校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p> <p>○第 2 回中学校訪問 (生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内) 10 月 10 日 (水)、11 日 (木) 79 校 (昨年度 79 校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p> <p>○第 3 回中学校訪問 (推薦・第一次・部活動専願入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動)</p> <p>○第 3 回中学校訪問 (推薦・第一次・部活動専願入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動) 11 月 22 日 (木)、11 月 26 日 (月) 79 校 (昨年度 79 校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p> <p>○第 4 回中学校訪問 (第二次入試に向けて、情報収集及び募集活動、推薦・第 1 次・部活動専願入試の報告) 2 月 21 日 (木)、22 日 (金)、25 日 (月) 79 校 (昨年度 79 校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p>
<p>(2) 高校説明会 (中学校からの依頼参加)</p>	<p><柏崎・刈羽地区 (13 校) 13 回></p> <p>①6 月 8 日 (金) 柏崎市立瑞穂中学校 ②6 月 11 日 (月) 柏崎市立鏡が沖中学校 ③6 月 12 日 (火) 出雲崎町立出雲崎中学校 ④6 月 15 日 (金) 刈羽村立刈羽中学校 ⑤6 月 19 日 (火) 柏崎市立北条中学校 ⑥6 月 20 日 (水) 柏崎市立第三中学校 ⑦6 月 21 日 (木) 柏崎市立第二中学校 ⑧6 月 22 日 (金) 柏崎市立第一中学校 ⑨6 月 25 日 (月) 柏崎市立南中学校 ⑩6 月 26 日 (火) 柏崎市立西山中学校 ⑪6 月 27 日 (水) 柏崎市立第五中学校 ⑫7 月 6 日 (金) 柏崎市立高松浜中学校 ⑬7 月 12 日 (木) 柏崎市立東中学校</p> <p><長岡・三条地区 (6 校) 6 回></p> <p>①6 月 14 日 (木) 長岡市立宮内中学校 ②6 月 15 日 (金) 長岡市立青葉台中学校 ③6 月 21 日 (木) 長岡市立山本中学校</p>

	<p>④7月10日(火) 長岡市立岡南中学校 ⑤7月13日(金) 長岡市立寺泊中学校 ⑥9月20日(木) 三条市立第二中学校</p> <p><上越地区(12校) 12回></p> <p>①6月14日(木) 上越市立大潟町中学校 ②6月15日(金) 上越市立春日中学校 ③6月19日(火) 上越市立城西中学校 ④6月21日(木) 上越市立中郷中学校 ⑤6月22日(金) 上越市立城東中学校 ⑥6月27日(水) 上越市立直江津中学校 ⑦7月9日(月) 上越市立城北中学校 ⑧7月13日(金) 上越市立八千穂中学校 ⑨8月21日(月) 上越市立柿崎中学校 ⑩10月12日(金) 上越市立頸城中学校 ⑪10月18日(木) 上越市立雄志中学校 ⑫11月16日(金) 上越市立吉川中学校</p> <p><十日町・小千谷・魚沼地区(5校) 5回></p> <p>①6月12日(火) 魚沼市立広神中学校 ②6月15日(金) 小千谷市立東小千谷中学校 ③6月19日(火) 十日町市立川西中学校 ④7月2日(月) 湯沢町立湯沢中学校 ⑤7月11日(水) 十日町市立中里中学校</p>
(3) 中学校教師対象入 試説明会	<p>9月14日(金) 18校 18人 (平成29年度19校 19人参加)</p> <p>柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、 瑞穂中学校、松浜中学校、南中学校、東中学校、第五中学校、 北条中学校、刈羽村立刈羽中学校、長岡市立関原中学校、 寺泊中学校、青葉台中学校、越路中学校、小国中学校、 上越市立吉川中学校、小千谷市立東小千谷中学校</p>
(4) オープンスクール (学校見学会)	<p>○第1回オープンスクール 8月25日(土) (部活動体験、産附弁当配付)130人(昨年度54人)</p> <p>○第2回オープンスクール10月14日(金) (授業・部活動体験、産附弁当配付)151人(昨年度213人)</p> <p>○個別見学会 随時(校舎・授業見学)</p> <p>(参考) オープンスクール参加者数</p> <p>平成15年度 50人、平成16年度 86人、平成17年度 56人、 平成18年度 76人、平成19年度 90人、平成20年度 168人、 平成21年度 170人、平成22年度 145人、平成23年度 242人、 平成24年度 269人、平成25年度 280人、平成26年度 237人、 平成27年度 237人、平成28年度 291人、平成29年度 267人 平成30年度 281人</p> <p>学校見学会には、多くの中学生・保護者の参加があり、授業や部活動の見学・体験から、本校についての理解を深めてもらった。</p>

(5) 募集結果 (2019 年度入試)			区 分	志願	受験	合格	入 学 統 手 続	入 学 許 可
普通	4	160	学業特別推薦	39	39	39	3	3
			スポーツ特別推薦	82	82	82	82	82
			一次 (専願)	23	23	22	22	22
			部活動専願	12	12	11	11	11
			併願推薦	231	231	231	4	4
			一般併願	126	126	112	8	8
			二次	2	2	2	2	2
			計	515	515	499	132	132

5 新規取組事項

- (1) 第一体育館・トイレ等大規模改修に係る工事費概算見積を行った。
- (2) 美術教室に水盤を設置
- (3) 講堂に Wi-Fi 設備を設置
- (4) 教室棟の自動防火扉を設置
- (5) 第一体育館に AED を設置
- (6) 平成 30 年度卒業記念事業として、講堂にプロジェクター設備一式、長机 5 台、演台を整備

第 3 部 財務の概要

資金収支計算書

平成30年 4月 1日から

平成31年 3月31日まで

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	609,098,000	609,107,484	▲ 9,484
手数料収入	12,935,000	13,464,340	▲ 529,340
寄付金収入	7,797,000	8,199,171	▲ 402,171
補助金収入	341,332,000	341,304,633	27,367
国庫補助金収入	129,062,000	129,061,864	136
地方公共団体補助金収入	212,270,000	212,242,769	27,231
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	23,707,000	23,586,400	120,600
受取利息・配当金収入	50,000	52,440	▲ 2,440
雑収入	96,558,000	97,283,918	▲ 725,918
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	63,951,000	96,171,668	▲ 32,220,668
その他の収入	178,296,214	122,258,735	56,037,479
資金収入調整勘定	▲ 154,092,168	▲ 159,635,964	5,543,796
前年度繰越支払資金	406,890,595	406,890,595	0
収入の部合計	1,586,522,641	1,558,683,420	27,839,221
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	685,995,000	684,740,121	1,254,879
教育研究経費支出	358,653,000	349,337,229	9,315,771
管理経費支出	102,233,000	96,906,711	5,326,289
借入金等利息支出	24,000	23,521	479
借入金等返済支出	2,353,000	2,352,200	800
施設関係支出	6,108,000	1,561,619	4,546,381
設備関係支出	15,670,000	4,454,885	11,215,115
資産運用支出	20,000,000	24,241,905	▲ 4,241,905
その他の支出	82,178,041	26,451,918	55,726,123
[予備費]	(0) 18,200,000	/	18,200,000
資金支出調整勘定	▲ 45,435,241	▲ 44,011,505	▲ 1,423,736
翌年度繰越支払資金	340,543,841	412,624,816	▲ 72,080,975
支出の部合計	1,586,522,641	1,558,683,420	27,839,221

事業活動収支計算書

平成30年4月1日から

平成31年3月31日まで

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	609,098,000	609,107,484	▲ 9,484
		手数料	12,935,000	13,464,340	▲ 529,340
		寄付金	8,297,000	8,385,906	▲ 88,906
		経常費等補助金	341,332,000	341,304,633	27,367
		国庫補助金	129,062,000	129,061,864	136
		地方公共団体補助金	212,270,000	212,242,769	27,231
		付随事業収入	23,707,000	23,586,400	120,600
		雑収入	96,661,000	97,076,556	▲ 415,556
		教育活動収入計	1,092,030,000	1,092,925,319	▲ 895,319
		事業活動支出の部	人件費	709,388,000	704,147,871
教育研究経費	434,303,000		424,379,458	9,923,542	
管理経費	118,383,000		113,163,805	5,219,195	
徴収不能額等	0		2,931,500	▲ 2,931,500	
教育活動支出計	1,262,074,000		1,244,622,634	17,451,366	
教育活動収支差額	▲ 170,044,000		▲ 151,697,315	▲ 18,346,685	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	50,000	52,440	▲ 2,440
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	50,000	52,440	▲ 2,440
	事業活動支出の部	借入金利息	24,000	23,521	479
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	24,000	23,521	479
教育活動外収支差額	26,000	28,919	▲ 2,919		
経常収支差額	▲ 170,018,000	▲ 151,668,396	▲ 18,349,604		
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	1,282,000	2,980,752	▲ 1,698,752
		特別収入計	1,282,000	2,980,752	▲ 1,698,752
	事業活動支出の部	資産処分差額	2,001,000	2,018,388	▲ 17,388
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	2,001,000	2,018,388	▲ 17,388
	特別収支差額	▲ 719,000	962,364	▲ 1,681,364	
	[予備費]	(0)		18,200,000	
基本金組入前当年度収支差額	▲ 188,937,000	▲ 150,706,032	▲ 38,230,968		
基本金組入額合計	▲ 18,504,000	▲ 736,655	▲ 17,767,345		
当年度収支差額	▲ 207,441,000	▲ 151,442,687	▲ 55,998,313		
前年度繰越収支差額	▲ 3,166,325,721	▲ 3,166,325,721	0		
基本金取崩額	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	▲ 3,373,766,721	▲ 3,317,768,408	▲ 55,998,313		
(参考)					
事業活動収入計	1,093,362,000	1,095,958,511	▲ 2,596,511		
事業活動支出計	1,282,299,000	1,246,664,543	35,634,457		

貸借対照表

平成31年3月31日

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	3,299,139,406	3,378,509,121	▲ 79,369,715
有形固定資産	2,833,307,860	2,917,768,942	▲ 84,461,082
特定資産	459,179,963	454,032,596	5,147,367
その他の固定資産	6,651,583	6,707,583	▲ 56,000
流動資産	496,617,198	505,575,107	▲ 8,957,909
資産の部合計	3,795,756,604	3,884,084,228	▲ 88,327,624
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	399,507,429	380,099,679	19,407,750
流動負債	162,283,033	119,312,375	42,970,658
負債の部合計	561,790,462	499,412,054	62,378,408
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	6,551,734,550	6,550,997,895	736,655
第1号基本金	6,462,734,550	6,461,997,895	736,655
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	4,000,000	4,000,000	0
第4号基本金	85,000,000	85,000,000	0
繰越収支差額	▲ 3,317,768,408	▲ 3,166,325,721	▲ 151,442,687
純資産の部合計	3,233,966,142	3,384,672,174	▲ 150,706,032
負債及び純資産の部合計	3,795,756,604	3,884,084,228	▲ 88,327,624